

民法 1 (総則) 〈A03A〉

配当年次	1 年次
授業科目単位数	4
科目試験出題者	力丸 祥子
文責(課題設題者)	力丸 祥子
教科書	指定 新井 誠・岡伸 浩『民法講義録』[改訂版] (日本評論社)

《授業の目的・到達目標》

民法総則に関する基本的な知識を獲得することをその目的とします。民法が試験科目となっている様々な試験を受験しようとしている受講生はもちろんのこと、それらを特に目指さない受講生も、民法に関する問題について、どのように解決をしていくべきか、その方法論を身につけてほしいと思います。

《授業の概要》

民法典第 1 編総則 (1 条～ 174 条の 2) と、成年後見法、消費者契約法や一般法人法など関連する特別法の、主として解釈論についての授業です。

民法総則は抽象的で分かりにくく、学習の途上で挫折してしまうことが多いといわれますが、これから法律学を学ぶ際の基礎となる分野ですので、確実な理解を積み重ねていくことが重要です。なお、本授業では可能な限り具体例を想定しながら、興味を持って授業に臨んでいくことが求められています。そのことによって、民法総則の抽象性を少しは払拭できると思います。

民法とは何か

民法の構成と内容

民法の基礎原理

所有権の絶対と権利の濫用

自然人の権利能力

自然人の意思能力・行為能力

未成年者

成年後見制度

住所、不在者・失踪宣告

物の観念・種類

法律行為の本質・目的

心裡留保、虚偽表示

錯誤

詐欺、強迫

代理制度の本質・代理権

代理行為と復代理

表見代理

狭義の無権代理

無効・取消
条件・期限
期間
時効の本質・効力
時効の更新・完成猶予
取得時効
消滅時効
法人の観念
法人の成立と消滅
法人の活動

《学習指導》

民法上の制度、各条文の存在意義（制度趣旨）、要件、効果に着目して学習することが必要となります。

また、社会には具体的にどのような紛争が生じているのか、知ることも重要です。各制度に関する重要な判例にも目を通すようにしてください。

《成績評価》

試験（科目試験またはスクーリング試験）により最終評価します。

民法1(総則)〈A03A〉

- ◎課題文の記入：不要（課題記入欄に「課題文不要のため省略しました。」と記入すること）
- ◎字数制限：1課題あたり2,000字程度（作成基準のとおり）

第1課題【基礎的な問題】

制限行為能力者制度について説明しなさい。

第2課題【基礎的な問題】

胎児の権利能力の保護について停止条件説または解除条件説を採用した場合、結果はそれぞれのよ
うに異なるか説明しなさい。

第3課題【応用的な問題】

登記簿上Aが所有者である甲土地をBが占有していた場合において、

- 1) このBはこの甲土地を取得し得るか。
- 2) Bが甲をCに譲渡した場合において、CはAに対し、自己が甲土地を取得したと主張し得る可能性はあるか。

第4課題【応用的な問題】

無権代理行為をなした事実上の後見人が後に正式の後見人に就職した場合、当該無権代理行為を追認
拒絶することはできるか。判例の立場を述べ、併せて私見を開陳しなさい。

〈推薦図書〉

大村 敦志	『新基本民法1 総則編 ― 基本原則と基本概念の法』〔第2版〕(2019年)	有斐閣
内田 貴	『民法I 総則・物権総論』〔第4版〕(2008年)	東京大学出
近江 幸治	『民法講義I 民法総則』〔第7版〕(2018年)	版会
佐久間 毅	『民法の基礎1 総則』〔第5版〕(2020年)	成文堂
山本 敬三	『民法講義I 総則』〔第3版〕(2011年)	有斐閣